



すすんで やさしく こんきよく ~みんなでつくろう 楽しい学校~

1年生 ポーリング



6年生

しょうがい物競走



5年生 ショート劇



3年生 いつどこで何をしたゲーム



4年生  
たからさがし



2年生 コインおとし



田植えをする子ども



お米ができるまで 校長の授業



大なわとびをして遊ぶ子どもたち

「笑いあえる空間をつくろう。」をとにしました。迷路、わなげ、小豆めあてに、6月6日(日)、スマイルつかみ、射的、ポーリング、コインフェスタが開かれました。このフェスタは毎年11月に開かれています。子どもたちが考えた遊で、子どもたちがクラスごとに遊び、みんなが楽しい時間を過ごすことを考え、みんなで交流し、楽しむための取組みです。今年はいろんながマンを強いられる子どもたちに「何か楽しいことができるか。」と「何か楽しいことができるか。」という思いから、この時期に行うことをお願いいたします。

「あ〜、楽しかった。」

スマイルフェスタ2021

日	曜	7・8・9月行事予定
7/1	木	学校水泳5年
2	金	3・4年遠足「市内めぐり」 1・2年遠足「水間公園」
5	月	放課後学習低学年 諸費振替
6	火	たなばた交流(1年と5年)2時間目 放課後学習高学年
7	水	ひまわり号
9	金	児童委員会
12	月	6年租税教室 10:50~ 短縮授業(給食あり) 13:35 下校
13	火	個人懇談会 短縮授業(給食あり) 13:05 下校
14	水	個人懇談会 短縮授業(給食あり) 13:05 下校 6年非行防止教室 1年安全・安心教室
15	木	1~4年短縮授業(給食あり) 13:35 下校 5・6年遠足「近つ飛鳥博物館」 下校 15:45 頃
16	金	個人懇談会 短縮授業(給食あり) 13:05 下校
17	土	つだっ子まつり(未定)
19	月	短縮授業(給食あり) 13:35 下校 5年非行防止教室
20	火	終業式 11:20 下校
8/6	金	登校日 10:00 下校
8/25	水	始業式 11:20 下校
8/26	木	短縮授業(給食あり) 13:35 下校
8/27	金	短縮授業(給食あり) 13:35 下校
8/30	月	短縮授業(給食あり) 13:35 下校
8/31	火	短縮授業(給食あり) 13:35 下校
9/1	火	短縮授業(給食あり) 13:35 下校
9/2	木	短縮授業(給食あり) 13:35 下校
9/3	金	通常授業スタート 児童委員会 諸費振替
9/17	金	・18(土) 5年生臨海学校
10/3	日	運動会 予備日(10/5 火)

◇家庭訪問を希望されるご家庭は、1学期中に各担任までご連絡ください。

中庭のアジサイ

## 田植えをしました！

「なんで苗が立へんのやろ?」「苗の本数多すぎたかな?」 子どもたちがいろいろなことを言い合っている。稲作農家の校長が授業で話をしてくれましたが、まだまだわからないこともたくさんあります。「こんな小さくて細い苗から米ができるなんてふしぎやな。」ある子がこんなことをつぶやきました。その疑問に答えられるよう、今後みんなで世話をし、観察を続けていきたいと思います。

5年生 6/8

## あつまれつだっ子!

始業前の体育館から子どもたちの歓声が聞こえてきます。津田校では毎週水曜日に、「あつまれつだっ子」という朝遊びに取り組んでいます。六年生を中心にやりたい遊びを考え、学年を越えてみんなでいっしょに、楽しく遊んでいます。

よりたくましく、しなやかに

校長

「人生100年時代」といわれるなかで、思いもしなかった災害やパンデミックを経験している昨今の状況です。長い人生の中でどんな困難に直面しても、たくましく、そしてそれぞれに幸せを感じながら生き抜くための力が、今ほど強く求められている時代はないといえます。

学校は、この前例のない事態の中で、子どもたちとどうつながるのか、子どもたちが抱えるさまざまな不安や悩みとどう向き合うのか、また子どもたちの学びをどう保障していくのかなど、数々の課題に直面し、教育の在り方について深く考えさせられています。

このたび緊急事態宣言が解除され、世の中はオリンピックへと進んでいくような空気ですが、今後も私たちとコロナとの闘いは続いていきます。子どもたちの安全、安心を最優先とし、「楽しさ」につながる教育活動をより多く生み出す工夫を、引き続き丁寧に進めていかねばなりません。

いろんな意味で厳しい、今の時代を生きる子どもたちにとって、「あの時はあの状況だったから仕方なかった。」ということだけは避けなければならないと思っています。有事は人を強くし、危機は人を大きく成長させ、人と人、コミュニティーや社会のきずなを結びなおす機会でもあります。このコロナ禍を、子どもたちをはじめ、学校が社会とともに、よりたくましく、しなやかに成長する機会にできるようにしなければならぬと考えます。

しかし、今や学校だけですべての課題を解決することは到底できません。多様な子どもたちを誰一人として取り残すことなく育てていくためには、学校が保護者や地域の皆様と連携、協働し、さまざまな専門職や関係機関も含めたチーム学校として、ねばり強く子どもたちに関わっていくことが求められます。どんな状況の家庭の子どもであっても、どんな地域に生まれても、障がいの有無、国籍などにも関係なく、すべての子どもが地域とつながり、守られながら必要な学びを確保し、それぞれに描く幸せを実現できるように、常に子どものことを真ん中にすえながら、みんなでしっかりと手を結んですすんでいきたいと思えます。